

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和6年 5月 30日

静岡県知事

鈴木 康友 殿

提出者

住 所 埼玉県朝霞市西原1-1-1

氏 名 株式会社武蔵野

代表取締役 安田 信行

電話番号 0538-43-2411

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 武蔵野 東海工場
事業場の所在地	静岡県袋井市久能2497-6
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	食料品製造業
② 事業の規模	818,841万円（令和5年度総売上高）
③ 従業員数	563名（正社員 92名、パート 471名）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1参照

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

別紙2参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	別紙3参照			
	排出量	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	別紙3参照			
	排出量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)				

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ゴミ袋色分けによる視認化 ・専用ゴミカート増設
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ライン変更・増設に合わせて、専用ゴミカート設置

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組) 自社での再生は行っていない。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も再生の予定はなし。				

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t
(これまでに実施した取組) 自社での中間処理は行っていない。					
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t
(今後実施する予定の取組) 今後も中間処理の予定はなし。					

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組) 自社での埋設等の処分は行っていない。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も埋立等の処分はなし。				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	別紙3参照			
	全処理委託量	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)				

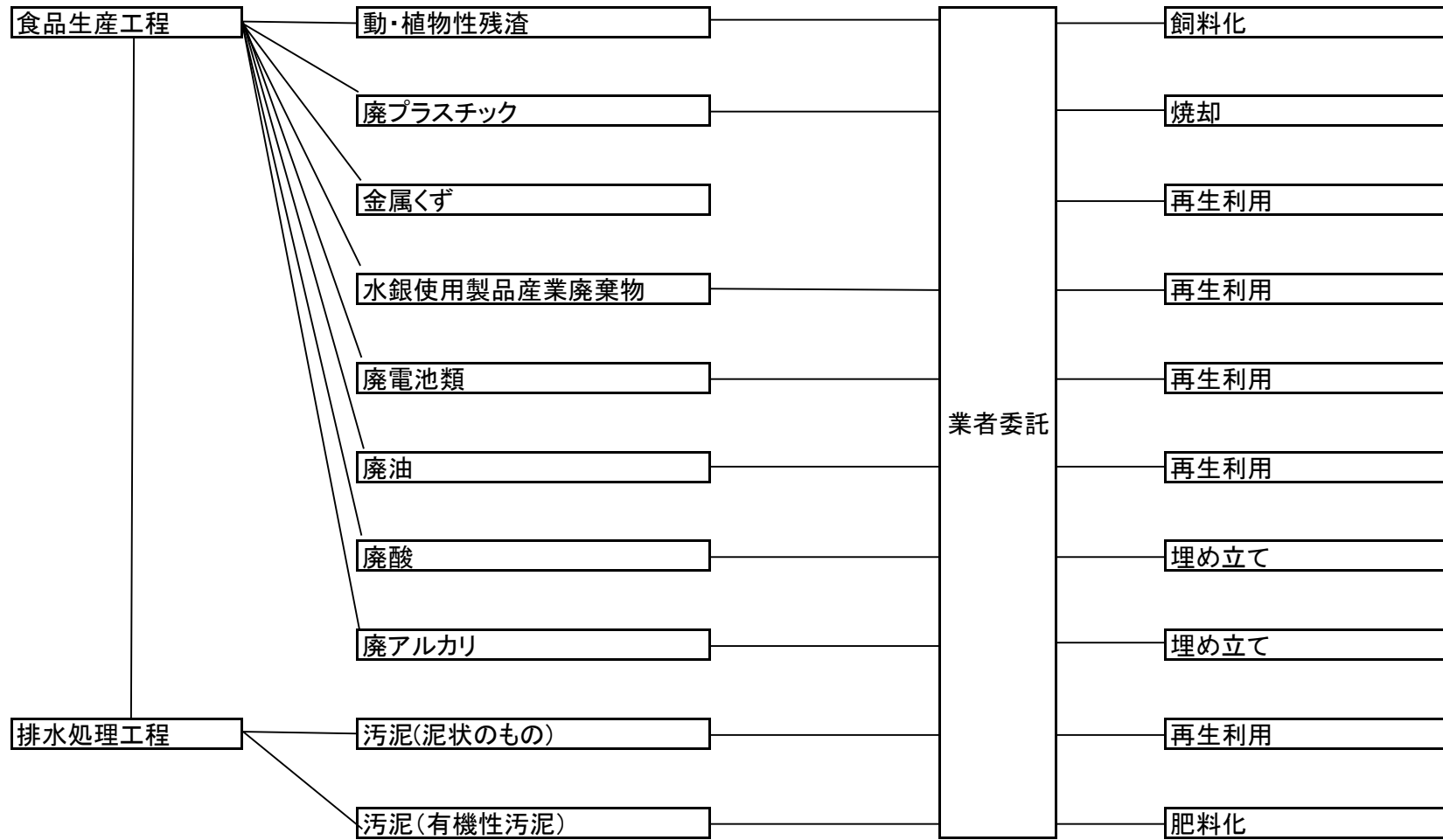
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	別紙3参照			
	全処理委託量	t	t	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)				
※事務処理欄					

(第6面)

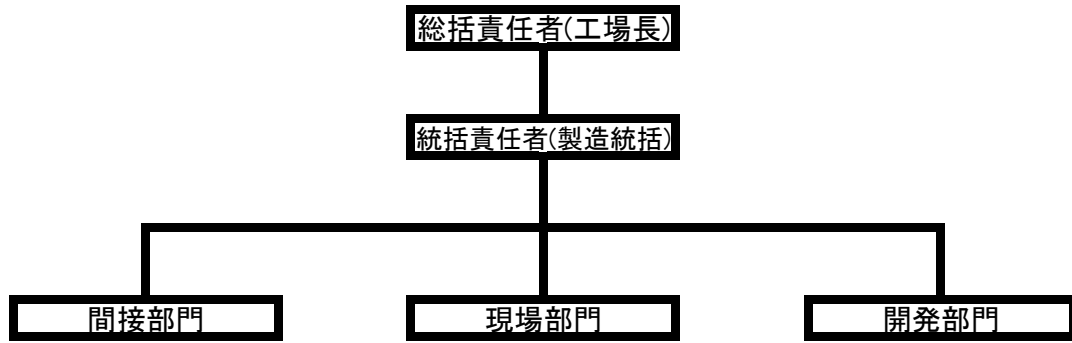
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理工程



管理組織図(東海工場)



現場部門	炊飯部署
	調理部署
	加工部署

間接部門	総務部署
	品質管理部署
	電算部署
	生産管理部署
	資材部署
	物流部署
	エンジニアリング部署
	安全管理部

開発部門	開発部署
------	------

前年度(2023年度)実績											
産業廃棄物の種類	動・植物性残渣	廃プラスチック類	金属くず	水銀使用製品産業廃棄物	廃電池類	廃油	汚泥	廃酸	廃アルカリ	合計	
①現状	排出量	883.65 t	0.0 t	14.86 t	0.0 t	0.0 t	4.2 t	477.79 t	0.57 t	0.57 t	1381.64 t
	優良認定処理業者への処理委託量			14.86 t				233.32 t			248.18 t
	再生利用業者への処理委託量	468.98 t		14.86 t	0.0 t	0.0 t	4.2 t	477.79 t			965.83 t
	認定熱処理回収業者への処理委託量										
	認定熱処理回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	413.56 t	0.0 t								413.56 t
(これまでに実施した取り組み) ・廃プラ削減⇒ショーレックス使用量削減の為、内番重洗浄機能力確認・菌検査実施 ・失敗・やり直しでの食品ロス削減⇒マニュアル掲示・類似具材の見える化 ・排水状態悪化による汚泥引き抜き回避⇒グリストラップにて定期的な油引き抜き											

2023年度目標											
産業廃棄物の種類	動・植物性残渣	廃プラスチック類	金属くず	水銀使用製品産業廃棄物	廃電池類	廃油	汚泥	廃酸	廃アルカリ	合計	
②計画	排出量	839.470 t	0.0 t	14.117 t	0.0 t	0.0 t	3.99 t	453.9 t	0.0 t	0.0 t	1311.477 t
	優良認定処理業者への処理委託量			14.117 t				221.65 t			235.767 t
	再生利用業者への処理委託量	445.53 t		14.117 t	0.0 t	0.0 t	3.99 t	453.9 t			917.537 t
	認定熱処理回収業者への処理委託量										
	認定熱処理回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	392.88 t	0.0 t								
(今後実施する予定の取組) ・食品ロス削減⇒基幹システムを使用し、歩留まり・残物の状況から仕込み量含めた製造の見直し 予定製造に対する確定差による廃棄を抑えるために、確定後の現場反映方法見直し 排水処理悪化による汚泥引き抜き防止⇒定期的なサンテーションを行うことで、突発的な油の流入を抑え、処理状態の安定化を図る											